

10章 共同溝工

10.1 電線共同溝（C・C・BOX）工

- 10.1.1 適用
- 10.1.2 舗装版破碎積込
- 10.1.3 土工
- 10.1.4 基礎工
- 10.1.5 管路工
- 10.1.6 仮設工

10.2 情報ボックス工

- 10.2.1 適用
- 10.2.2 舗装版破碎
- 10.2.3 土工
- 10.2.4 基礎工
- 10.2.5 管路材設置
- 10.2.6 ハンドホール設置
- 10.2.7 仮設工

10章 共同溝工

10.1 電線共同溝(C・C・BOX)工

10.1.1 適用

1. 適用

電線共同溝 (C・C・BOX) 工事に適用する。

10.1.2 舗装版破碎積込

1. 適用

電線共同溝 (C・C・BOX) の設置工事の舗装版破碎積込に適用する。
・舗装版破碎積込：厚さが15cm以下のアスファルト舗装版の破碎及び積込作業の場合

2. 数量算出項目

舗装版破碎積込を算出する。

(1) 数量算出項目一覧表

項目	区分	3次元 モデル	属性情報		
			単位	数量	備考
舗装版破碎積込		B	m ²		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

10.1.3 土工

1. 適用

電線共同溝（C・C・BOX）工事の土工に適用する。

- ・床掘り：土質が土砂（砂質土及び砂、粘性土、レキ質土）の床掘り作業の場合
- ・埋戻し・締固め：管路材及びプレキャストボックス設置後の埋戻し・締固め作業の場合

2. 数量算出項目

床掘り、埋戻し・締固めの土量、埋設表示シート（材料費）を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、土質とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元モデル	属性情報			
			規格・仕様	土質	単位	数量
床掘り		土構造	×	×	m ³	
埋戻し・締固め		土構造	×	○	m ³	
埋設表示シート (材料費)		B	○	×	m	

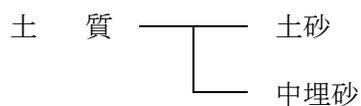
3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

注) 1. 床掘り数量は、地山数量とする。

2. 埋戻し数量は、締固め後数量とする。

(2) 土質区分

土質による区分



10.1.4 基礎工

基礎工の数量は、「第1編（共通編） 4章コンクリート工 4.1 コンクリート工及び9章基礎工 9.1 基礎・裏込砕石工」により算出する。

10. 1. 5 管路工

1. 適用

電線共同溝（C・C・BOX）の設置工事の管路工に適用する。

(1) 管路材設置

- ・ 露出部に単管（呼び径150mm以下）を設置する場合
- ・ 埋設部に単管・FA管（呼び径150mm以下）、ボディ管（呼び径200mm（さや管12条以下）、250mm（さや管21条以下）、多条管（可とう性のある波付き管路材で呼び径150mm以下）を設置する場合

(2) プレキャストボックス設置

- ・ 質量が11,000kg以下のプレキャストボックスブロックの設置作業の場合

(3) 蓋設置

- ・ 質量が2,000kg以下の蓋の設置作業の場合

2. 数量算出項目

管路材設置、受金具（材料費）、支持金具（材料費）、管路受台（スペーサ）（材料費）、プレキャストボックス設置、蓋設置、蓋（材料費）を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格・仕様、作業区分、ボックスブロック1個当り質量、蓋1組当り質量とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

区分 項目	3次元 モデル	属性情報						備考
		規格 ・ 仕様	作業 区分	ボックス ブロック1個当 り質量	蓋1組当 り質量	単位	数量	
管路材設置	B	○	○			m		
受金具 (材料費)	B	○				個		
支持金具 (材料費)	B	○				個		
管路受台 (スペーサ) (材料費)	B	○				個		
プレキャスト ボックス設置	B	○		○		個		注1 (2) その他1)
蓋設置	B	○			○	個		注2 (2) その他2)

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

- 注) 1. 埋設部・露出部毎に算出する。なお、露出部とは、橋梁添架及びトンネル内等設置により露出管路となる部分をいう。
2. プレキャストボックスは、側壁、本体（上部躯体、下部床版）からなる個々のブロックより構成される。計上するボックスブロック個数は、蓋部・調整リング、受枠を除く側壁、本体（上部躯体、下部床版）からなる個々のブロック数を計上する。なお、上部躯体質量は、蓋部、調整リング及び受枠質量を含めないものとする。
3. 蓋1組当り質量は、蓋部、調整リング及び受枠も含めた1組当り質量を計上する。

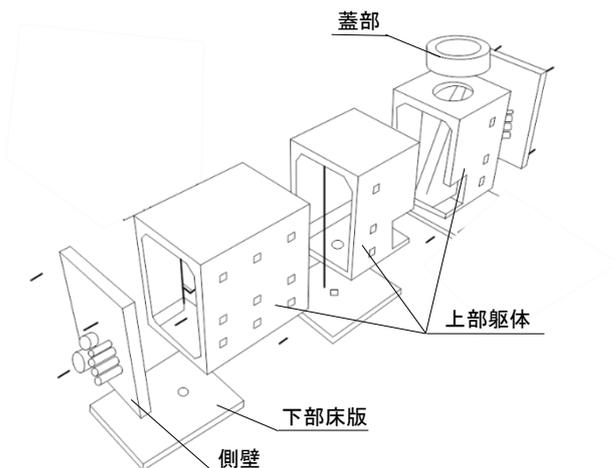
(2) その他

1) 管路材設置

- ・管路材作業区分は、露出部、埋設部とする。なお、橋梁添架及びトンネル内等設置により露出管路となる部分をいう。
- ・管路材は、単管、FA管、ボディ管、多条管、さや管の規格・仕様別に算出する。
- ・多条管は、管1本当り（1条当り）とする。
- ・さや管の条数は、ボディ管1本当りに対する条数とする。

2) プレキャストボックス

下図のとおり、プレキャストボックス1箇所ごとにプレキャストボックスブロック質量区分別個数を算出する。ただし、個々のプレキャストボックスブロック質量を併記すること。

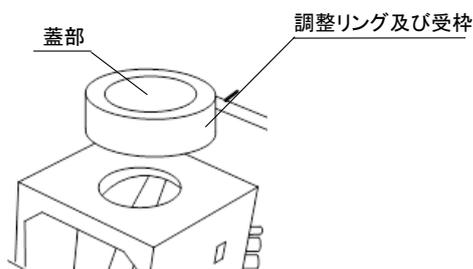


プレキャストボックスブロック1個当り質量区分

- ①1,000kg 以下
- ②1,000kg 超～4,000kg 以下
- ③4,000kg 超～11,000kg 以下

3) 蓋

下図のとおり、蓋1組当りの質量を算出し、質量区分ごとに組数を算出する。



蓋1組当り質量区分

- ①200kg 以下
- ②200kg 超～800kg 以下
- ③800kg 超～2,000kg 以下

10. 1. 6 仮設工

1. 適用

電線共同溝（C・C・BOX）の設置工事の仮設工に適用する。
 ・ 軽量鋼矢板設置・撤去：土留工における軽量鋼矢板の設置及び撤去作業の場合
 ・ 覆工板設置・撤去：覆工板の設置及び撤去作業の場合

2. 数量算出項目

軽量鋼矢板設置・撤去の延長、及び覆工板設置・撤去の面積を算出する。

(1) 数量算出項目一覧表

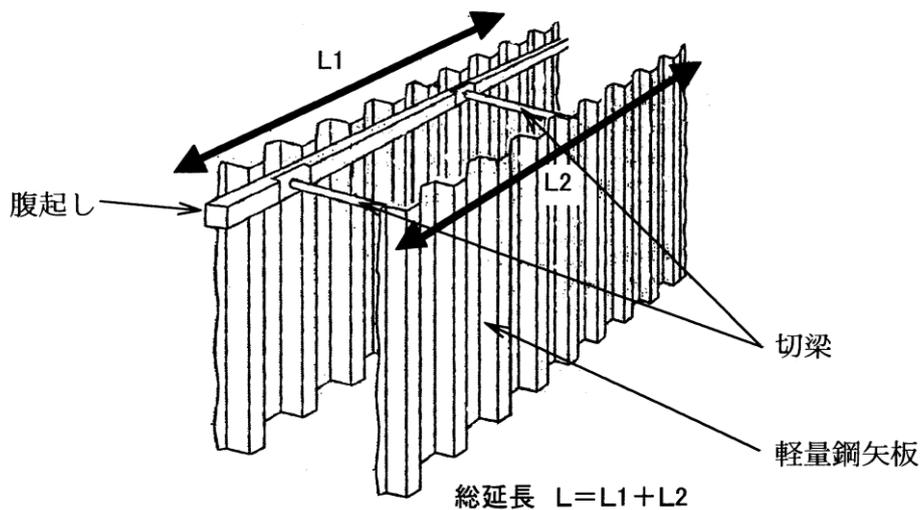
項目	区分	3次元モデル	属性情報		
			単位	数量	備考
軽量鋼矢板設置・撤去		B	m		
覆工板設置・撤去		B	m ²		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

注) 1. 矢板設置延長は、総延長とする。

2. 覆工板設置撤去の施工数量は、工事中の延べ設置・撤去面積とする。

3. 参考図



10.2 情報ボックス工

10.2.1 適用

1. 適用

情報ボックス工事に適用する。

10.2.2 舗装版破碎

1. 適用

情報ボックス工事の舗装版破碎に適用する。

- ・舗装版破碎：厚さが15cm以下のアスファルト舗装版の破碎及び積込作業の場合

2. 数量算出項目

舗装版破碎を算出する。

(1) 数量算出項目一覧表

項目	区分	3次元モデル	属性情報		
			単位	数量	備考
舗装版破碎		B	m ²		積込を含む

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

関連数量算出項目

項目	3次元モデル	単位	数量	備考
舗装版切断	B	m		「第3編（道路編）3.3舗装版切断」参照
舗装版復旧	B	m ²		「第3編（道路編）1舗装工」参照

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

10.2.3 土工

1. 適用

情報ボックス工事の土工に適用する。

- ・床掘り：基面整正を含む床掘り作業の場合
- ・埋戻し：埋設表示シートの設置を含む埋戻し・締固め作業の場合

2. 数量算出項目

床掘り、埋戻し、中埋材（材料費）、埋設表示シート（材料費）の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格・仕様、中埋材料とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

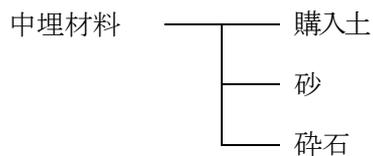
区 分 項 目	3次元 モデル	属 性 情 報				
		規格・仕様	中埋材料	単 位	数 量	備 考
床掘り	土構造	×	×	m ³		
埋戻し	土構造	×	×	m ³		
中埋材（材料費）	土構造	×	○	m ³		
埋設表示シート （材料費）	B	○	×	m		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

注) 床掘り数量は、地山数量とする。

また、埋戻し数量は、締固め後数量とする。

(2) 中埋材料の区分



10.2.4 基礎工

1. 適用

情報ボックス工事の基礎工に適用する。
・基礎材：基礎材の厚さが20cm以下の場合

2. 数量算出項目

基礎材の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、碎石の厚さ、碎石の種類とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元モデル	属性情報			
			碎石の厚さ	碎石の種類	単位	数量
基礎材		B	○	○	m2	

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

10.2.5 管路材設置

1. 適用

情報ボックス工事の本体管及びさや管等の設置に適用する。
・埋設部管路材設置：埋設部における管路材の設置作業の場合
・露出部管路材設置：トンネル部を除く露出部における本体管及びさや管の設置作業の場合

2. 数量算出項目

埋設部管路材設置、露出部管路材設置、スリーブ（材料費）、伸縮継手（材料費）の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

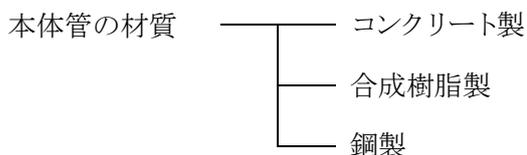
区分は、規格・仕様、本体管の材質、さや管の材質、設置区分、さや管の条数、高所作業車による作業とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

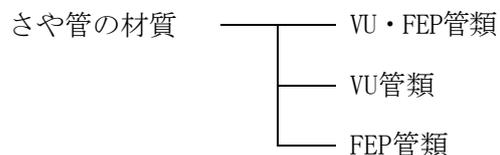
項目	区分	3次元モデル	属性情報								
			規格・仕様	本体管の材質	さや管の材質	設置区分	さや管の条数	高所作業車による作業	単位	数量	備考
埋設部管路材設置	B	○	○	○	○	○	○	×	m		
露出部管路材設置	B	○	×	×	×	×	○	○	m		
スリーブ(材料費)	B	○	×	×	×	×	×	×	個		
伸縮継手(材料費)	B	○	×	×	×	×	×	×	個		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

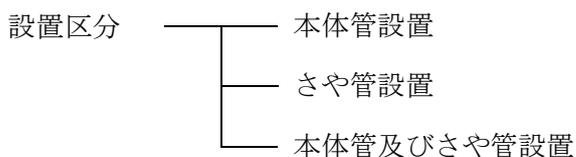
(2) 本体管の材質による区分



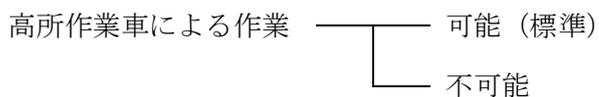
(3) さや管の材質による区分



(4) 設置区分



(5) 高所作業車による作業による区分



10.2.6 ハンドホール設置

1. 適用

情報ボックス工事のハンドホール、蓋等の設置に適用する。
 ・ハンドホール設置：ハンドホール設置（支持金具、蓋、固定板の設置を含む）の場合

2. 数量算出項目

ハンドホール、ハンドホール蓋（材料費）、ハンドホール固定板（材料費）、支持金具（材料費）の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格・仕様、クレーン機種とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

区 分 項 目	3次元 モデル	属 性 情 報				
		規格・仕様	クレーン機種	単位	数量	備考
ハンドホール	B	○	○	個		
ハンドホール蓋 (材料費)	B	○	×	枚		
ハンドホール固定板 (材料費)	B	○	×	枚		
支持金具 (材料費)	B	○	×	個		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

(2) クレーン機種による区分

クレーン機種	—	バックホウ (クローラ型)
	—	ラフテレーンクレーン 最大吊上能力 4.9t吊
	—	ラフテレーンクレーン 最大吊上能力 16t吊
	—	ラフテレーンクレーン 最大吊上能力 20t吊
	—	ラフテレーンクレーン 最大吊上能力 25t吊

10.2.7 仮設工

仮設工の数量は、「第1編（共通編）11章仮設工により算出する。なお、軽量鋼矢板による土留、路面覆工等による仮設工の数量は、「第3編（道路編）10章共同溝10.1電線共同溝（C・C・BOX）工」により算出する。